

## 平飼い養鶏の実態と普及可能性の検討

誌名	静岡県中小家畜試験場研究報告 = Bulletin of Shizuoka Swine & Poultry Experiment Station
ISSN	09146520
著者	石川, 幸市
巻/号	2号
掲載ページ	p. 89-91
発行年月	1989年10月

# 平飼い養鶏の実態と普及可能性の検討

石川幸市

**要約**：平飼い養鶏の実態を調査し、農業の複合経営に導入した場合、経営改善になるかどうか検討し、以下の結果を得た。

調査した事例の養鶏開始年月は昭和58年以降がほとんどで、飼育規模は300～1,500羽であった。飼育鶏種はいずれもブラウン系卵用種で、卵にはブランド名をつけていた。鶏舎はすべて手造りで簡易なものであった。飼育密度は6～10羽/3.3㎡で、給与飼料は自家配合であった。鶏卵販売価格は30～35円/個で直販。最も優良と思われる事例の所得は1,500羽飼育し660万円であった。経営設計上無理のない所得は1,000羽で、260万円程度と試算され、複合経営の改善になるものと考えられ、また休耕農地の利用による普及の可能性があると考えられる。

(静岡中小試研報 89～91, 2, 1989)

我国の食品消費は飽食の時代を迎え、高品質や新鮮さ、安全性に高い価値が認められるようになってきた。また、こうした新しい価値をもった農畜産物は輸入の自由化に伴う、外国産品との競争に対抗し得る傾向も見受けられる。

こうした視点から卵についてみると、ケージ養鶏の卵は1個10円程度の価格であるが、平飼いの有精卵は30～35円で売られている。まさに新しい価値をもった新製品と言えるようである。

そこで、静岡県内の平飼い養鶏の実態を調査し、農業の複合経営の中に導入した場合の、経営改善の効果および普及の可能性について検討した。

## 1. 調査方法と経済性の検討方法

調査は県下畜産担当普及員に対し、養鶏開始年月、卵販売ブランド名、飼育鶏種、飼育羽数、鶏舎形式、収容密度、給与飼料、卵の販売方法、その他技術項目を記した調査表を配布、聞きとり面接調査とした。

調査は昭和63年7月におこなった。なお、調査戸数は13戸とした。

普及の可能性に関する検討は調査時点で産卵成績等、明らかにできなかったため、過去の平飼い試験の成績から予測し、新たに経営を始める場合の設計値を試算した。

## 2. 調査結果

調査結果は表1に示した通りである。

養鶏開始年月は昭和48年が1戸であったが、その他12戸は昭和57年以降で経験年数が少なかった。飼育羽数は

ほとんどが300羽程度であったが、昭和63年に始めた2戸はいずれも1,500羽で比較的大羽数飼育であった。これらの農家はいずれもブランド名を付けていた。ブランド名は「庭先たまご」「自然卵」「有精卵」等であった。飼育鶏種はほとんどブラウン系卵用種で、銘柄はイサブラウン・シェーバーブラウン・ゴトウ等であった。鶏舎は全戸とも間伐材・鉄パイプ利用の手造りの簡易な建物で、運動場のあるものもあった。なお、収容密度は鶏舎面積に対し、6～10羽/3.3㎡であった。

給与飼料は1戸が市販の配合飼料を用いていた他はすべて自家配合飼料を用いていた。これは鶏卵の安全性をセールスポイントにするためと考えられた。飼料購入価格は明確にできた例では1kg当り43円であった。なお、この価格は調査時の市販配合飼料に比し割高と考えられた。

鶏卵の販売価格は1個30～35円で最も高い例で50円であった。鶏卵の販売はほとんどが直販で、販売先は個人・スーパー・消費者グループ・菓子店・自然食品の店・自動販売機等であった。

管理技術的には点灯しない事例もあり、点灯技術・飼料配合技術・鶏病予防技術等で不十分な農家が多く、今後の技術指導が必要と思われた。

なお、最も優良な事例と思われるものを表2に示した。S氏はブラウン系鶏種1,500羽を飼育し年間所得660万円をあげていた。鶏卵の販売価格は30～35円/個で、その販路は自然食品の店5%・卸問屋からスーパーを通して30%・消費者グループへ55%・地元直販10%である。また、販売地域は静岡市・沼津市などかなり遠方にまでわ

表1. 平飼い養鶏調査結果の概要

1. 調査農家数	13戸
2. 開始年月	48年 1戸, 57年 1戸, 58年 3戸, 59年 5戸 61年 1戸, 63年 2戸,
3. ブランド名	庭先たまご, 自然卵, 有精卵 等
4. 飼養鶏種	ほとんどブラウン系 (褐色卵系)
5. 飼養規模	200~1,500羽, 300羽程度が多い
6. 収容密度	6~10羽/3.3㎡
7. 鶏舎	手作り簡易鶏舎, 平飼い
8. 飼料	自家配合がほとんど, 43円/kg
9. 卵販売価格	30~35円/個
10. 販売方法	個人, スーパー, 消費者グループ, 菓子店, 自然食品の店 自動販売機売り, 等
11. 点灯方法	夏以降12~15時間, 無点灯農家もある
12. 鶏病予防	ワクチネーションが十分に行われていない農家が多い
13. その他	キツネ, ネコ, イタチ, ヘビ, カラス, イヌの被害時々経験

表2. 優良事例 (S養鶏場)

1. 住所	小笠郡菊川町	7. 飼料 自家配合 (配合割合)																												
2. 開始年月	昭和59年	<table border="1"> <tr> <td>二種混合</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>パンくず</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>米ぬか</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>大豆カス</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>グルテンミール</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>オカラ</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>魚カス</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>フィッシュソリュブル</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>カキガラ</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>貝化石</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>炭カル</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>緑餌</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>発酵飼料</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>骨粉</td> <td>0.5</td> </tr> </table>	二種混合	40%	パンくず	10	米ぬか	15	大豆カス	5	グルテンミール	3	オカラ	2.5	魚カス	2	フィッシュソリュブル	2	カキガラ	4	貝化石	1	炭カル	1	緑餌	5	発酵飼料	9	骨粉	0.5
二種混合	40%																													
パンくず	10																													
米ぬか	15																													
大豆カス	5																													
グルテンミール	3																													
オカラ	2.5																													
魚カス	2																													
フィッシュソリュブル	2																													
カキガラ	4																													
貝化石	1																													
炭カル	1																													
緑餌	5																													
発酵飼料	9																													
骨粉	0.5																													
3. 飼養鶏種	ブラウン系種																													
4. 飼養規模	1,500羽																													
5. 卵の販路	自然食品の店 5% 卸問屋→スーパー 30% 消費者グループ 55% 地元直販 10%																													
6. 所得	<table border="1"> <tr> <td>月 55万円</td> <td>収入 95万円</td> </tr> <tr> <td>年 660万円</td> <td>支出 40万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(飼料費 30万)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(雛代 2万)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(その他 8万)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>差引 55万円</td> </tr> </table>	月 55万円	収入 95万円	年 660万円	支出 40万円		(飼料費 30万)		(雛代 2万)		(その他 8万)		差引 55万円																	
月 55万円	収入 95万円																													
年 660万円	支出 40万円																													
	(飼料費 30万)																													
	(雛代 2万)																													
	(その他 8万)																													
	差引 55万円																													

たっていた。

### 3. 産卵成績と経済性の試算

産卵成績は今回の調査結果から明らかにすることができなかった。そのため、過去の平飼い試験 (昭和41年度試験<sup>1)</sup>・昭和42年度試験<sup>2)</sup>・昭和44年度試験<sup>3)</sup>)の成績から推定すると表3のようになる。すなわち、平均産卵数237個、生存率92%、飼料要求率3.10程度とみればよいものと思われる。なお、これらの成績はロックホーン・白レグのものであるが品種性能試験<sup>4)</sup>から推定する

とブラウン系鶏種についてもほぼ同様の成績が出せると考えてよいように思われる。

この成績から経営設計を行う場合の経済性を表4のように試算した。試算は60日齢雛300羽を年4回導入、年平均羽数1,072羽飼育する。販売価格は1個25円とする等を前提とした。計算方法は表4の通りであり、所得は約260万円である。なお、生産費計算に当たって飼料費以外の生産費割合を40.3%としたが、実際にはケージ養鶏に比べて鶏舎償却費が少なくなるから、これより安い生産費になるものと考えられる。

表3. 鶏を平飼いにした時の産卵成績

試験年度	昭和41年度		昭和42年度	昭和44年度
供試品種	ロックホーン		白レグ	白レグ
収容密度(3.3㎡)	10羽	20羽	20羽	13.3羽
産卵率(%)	66.9	62.7	72.0	68.0
産卵個数(個)	222.1	205.1	253.2	238.9
生存率(%)	81.9	79.2	92.7	92.5
飼料消費量(g)	108.7		120.0	108.3
飼料要求率	3.07		2.88	2.83

表4. 1,000羽飼育に必要な設備と期待できる産卵成績

1. 必要な設備	1) 成鶏舎	5.46 × 18.2 m (300羽・㎡当り3羽) × 4棟		
	2) 育成舎	5.46 × 9.9 m (300羽・㎡当り6羽) × 2棟		
	3) その他	60日齢びな・300羽4回導入, 必要面積1,000㎡ 鉄パイプハウス, アルミシート屋根		
2. 期待できる産卵成績	1) 平均羽数	1,072羽	2) 産卵率	65%
	3) 卵重	64g	4) 産卵日量	41.6g
	5) 生存率	92%	6) 産卵個数	237.3個
	7) 飼料消費量	129g/日	8) 飼料要求率	3.10

表5. 経済性試算

1. 収入 = 平均羽数 (1,072) × 360日 × 産卵率 (65) × 単価 (25) = 6,271,200円
2. 支出 = 3,662,337円
ただし, kg当り生産費 (1個当り生産費) = 飼料単価 × 飼料消費量 / 飼料費の割合 × 産卵量 = 45 × 0.129 / 0.597 × 0.0416 = 233.7 / 16個 (kg当り16個) = 14.6円
総生産費 = 羽数 × 日数 × 産卵率 = 1,072 × 360 × 65% = 250,845個 × 14.6円 = 3,662,337円
3. 差引(所得) = 2,608,863円      所得率 = 41.6%

以上, 問題点もあるが, 休耕農地の有効利用, 複合経営の所得向上のためには有望な飼育方法のように思われる。

2) 静岡県鶏試研報, 4, 13, 1967.

3) 静岡県鶏試研報, 6, 1, 1969.

4) 今峰 謙・衣川貞志・足立 : 京都府畜研成績書, 27, 150, 1987.

## 文 献

1) 静岡県鶏試研報, 3, 18, 1966.

